

## 第31回兵庫県医療審議会地域医療対策部会 議事概要

- 日 時： 令和5年8月17日(木) 14:00～15:00
- 場 所： 兵庫県医師会館6階会議室
- 出席委員：

大村 武久	(兵庫県病院協会長)
岡林 孝直	(兵庫県医師会副会長)
國廣 晴美	(兵庫県助産師会長)
太城 力良	(兵庫医科大学理事長)
谷勝 公代	(兵庫県連合婦人会副会長)
都倉 達殊	(兵庫県市長会・高砂市長)
西 昂	(兵庫県民間病院協会長)
登里 倭江	(兵庫県いずみ会長)
福田 庸二	(兵庫県国民健康保険団体連合会専務理事)
眞庭 謙昌	(神戸大学医学部附属病院長)
秋田 穂束	(兵庫県立丹波医療センター名誉院長)
石田 達郎	(神戸大学医学部附属地域医療活性化センター長)
鷺見 宏	(兵庫県保健所長会長)

### ● 議 事

#### (1) 地域医療支援病院の承認について【資料1】

##### 【論点】

社会医療法人三栄会ツカザキ病院の地域医療支援病院の指定について

##### 【結論】

事務局案について承認。地域医療支援病院の指定の手続きを進める。

#### (2) 医師派遣等推進事業について【資料2】

##### 【論点】

令和5年度の医師派遣事業計画案について

##### 【結論】

- ・ 令和5年度の医師派遣事業計画案について承認。

#### (3) 令和6年度地域枠について【資料3】

##### 【論点】

- ・ 令和6年度に向けた地域枠の方針案について

##### 【結論】

- ・ 事務局の方針案について承認。志願者数減少に伴い、地域枠制度をチラシ等で幅

広く周知する。

## ● 報 告

### (1) 医師確保に関する会議体における協議について【資料4】

#### 【論点】

- ・ 7月に実施した県養成医師派遣調整会議についての報告

#### 【主な意見】

- ・ 医療の世界では、プロフェッショナルオートノミーが機能していない。夫々が自身の利益を主張し、公共性に重きを置いた方針が出せていない気がする。少なくともこちらの委員の皆様におかれては、養成医にしわ寄せがこないように、またこの制度をより充実するためにご理解・協力いただきたい。
- ・ 丹波医療センターでは、地域枠の医師を差別せずに、将来戻ってきてくれるという想いを持って、教育している。臨床研修で良かったと思ってくれた医師が、義務年限終了後や後期研修に戻ってきてくれるので、大切に育てている。
- ・ 一般的に地域枠は、義務やペナルティーが厳しいと言われているが、兵庫県の場合は診療科選択の自由が多い。勤務先も日本海側のへき地で9年間勤務しなければいけないわけではなく、9年間の内、最大で5年くらいの勤務になる。(へき地の小病院勤務においては1～2年間) そのため、残り半数の期間は行きたい病院に行ける。

### (2) 医師の働き方改革について【資料5】

#### 【論点】

- ・ 特定労務管理対象機関の指定にかかる状況報告

#### 【主な意見】

- ・ 24の医療機関が指定申請予定、評価センター受審申込が10件という数字は、全体的に見て、スケジュールが遅れているのではないか。そうであるのなら幅広く周知していくべきではないか。
- ・ 当初、50の医療機関が指定申請予定であったが、直日直許可を取ることで申請予定の医療機関が減っている。

### (3) 高砂市民病院（地域医療支援病院）の取扱いについて【資料6】

#### 【論点】

- ・地域医療支援病院としての達成状況及び令和5年度の計画報告

**【主な意見】**

- ・直近3年間は、コロナがあり、地域医療支援病院の基準が未達であったが、23床のコロナ対応をして、公立病院としての役割は果たせたのではないかと考えている。
- ・高砂市内において、地域医療支援病院の認定がとれているのは、同病院だけなので、指定を取り消された場合、高砂市内の医療機関に影響があるだけでなく、入院加算を受入れなくなるため、病院の経営的ダメージも考えられる。そのため令和5年度の進捗状況を踏まえ、11月に開催予定の医療審議会地域医療対策部会にて地域医療支援病院としての取扱いの是非を審議する必要がある。